

もっと  
よく知ろう

# 大腸がん のこと

大腸がんで亡くなる日本人は近年、男女ともに急速に増えており、2013年の死亡者数は4万2,257人(厚生労働省人口動態統計)。現在、肺がんや胃がんに次いで第3位ですが、2015年にはトップに立つと予想されています。

## 原因は 食生活の欧米化？

大腸は、成人では1.5メートルから2メートルにも及ぶ長い臓器です。右下腹部の盲腸に始まり、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸と続く結腸と、肛門に近い20センチほどの直腸があり、小腸から流れてきた内容物から水分を吸収し、固形の便にして肛門に送る働きがあります。

大腸がんとは、結腸がんや直腸がんのことで、どちらも腸壁の粘膜層で発生した悪性腫瘍が進行すると、番外側の壁である漿膜から周囲の臓器へ広がったり、リンパ管や血管を通して全身に転移したりすることがあります。最も発生しやすい部位は直腸やS状結腸で、

全大腸がんの7割以上を占めています。原因とされるのが、欧米化した私たちの食生活です。以前と比べ、動物性脂肪やタンパク質を多くとり、食物繊維をとらなくなったことが関係しているといわれており、大腸がんの患者さんが欧米諸国に多いのも、その推測を裏付けています。

## 自覚症状のない初期なら 内視鏡で切除できる

大腸がんは、腫瘍が粘膜内にあるレベルでは症状はまったくなく、ポリープ状になるとわずかな出血があります。この段階で自覚症状はほとんどありません。

腫瘍がだんだん大きくなるにつれ、便の中に血が混じっていることや、便秘や下痢を繰り返すなどの異常に気づきます。さらに進むと、結腸がんなら、腹部のしこりや膨満感、直腸がんなら、

便が少ししか出ずに何回もトイレに行きたくなり、さらに便が細くなるという症状が強く出るようになります。幸いなことに、大腸がんは他のがんに比べて進行が遅く、早期に発見すれば内視鏡手術でお腹を切らずに切除することが出来ます。できるなら自覚症状が出ないうちに、定期検診で発見したいものです。また、よくお尻からの出血を持だと勘違いしてそのまま放置する人がいますが、自己判断は手遅れのもとです。必ず受診するようにしてください。

## 定期検診を積極的に受け 早期発見に努めよう

検診で代表的なものは、便潜血反応

検査です。トイレで便に血が付いているのを発見したときは進行期に入っていることが多く、その前段階の肉眼で見えない潜血を発見するため生化学的な検査を行うのです。

ただ、これで陽性だからといって、大腸がんだと決まったわけではありません。原因が痔などの肛門の病気だったり、ポリープからの出血だったりする場合もあるからで、さらに内視鏡検査でくわしく粘膜面の変化を調べます。

大腸がんは60歳代の人に多い病気ですが、がん化しやすい大腸ポリープはもっと若いころから内視鏡などで確認することが出来ます。早期発見のため、40歳を過ぎたら年に1回は便潜血反応検査を、また2、3年に1回は内視鏡検査を受けるようにしましょう。

### 大腸がんの発生頻度

